

# 浜かいどう

第25号

2024年(令和6年)1月1日  
 発行 一般社団法人  
 茶道裏千家淡交会いわき支部  
 いわき市泉玉露3-13-15  
 伊東宗恭方 ☎0246-96-5232  
 編集 総務委員会



## 年頭のご挨拶

いわき支部長  
 伊藤 博人



年頭に当たり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。役員・会員の皆様方の支那行事、地区、総本部行事等へのご尽力に対し、衷心より感謝申し上げます。

昨年五月新型コロナウイルス感染症が五類に移行後、日常を取り戻しておりますが、これまでコロナ禍はどれほど日常を奪ったことだろうか。

芸能、スポーツ、祭り、入学式、修学旅行、飲食での語らい、そして病院へのお見舞いすら思うようにまかせなかつたこと等でした。淡交会の会議において四年ぶりの、茶道の行動指針と云われる「ことば」の唱和が出来るようになりしました。

お家元は、他人を思いやり、人々に生かされている多くの恩愛に感謝をささげ、和敬静寂の茶道の精神の下、道、学、術に則して修練するように提唱されております。茶道はもとより、社会、経済活動におきましても「ことば」をかたちに知恵と実践を図ることが大切

であります。

振り返りますと、コロナ感染症が五類に移行され、猛威を振った酷暑でありましたが、青年部、学茶の新しい様式での茶会、研修会、そしていわき支部が主管しての四支部合同巡回講演会が盛会裡に開催され、四年振りに茶の湯の心の普及と交流を深めることが出来ました。心より感謝申し上げます。

尚、講演会の講師は、筑波大学教授石塚修(宗修)先生をお迎えして、「茶会のことば」と題しての、高邁で軽妙な示唆にとんだ講話を頂きました。先生より、「おだやかないわきの海を思いつつ」今朝一碗の薄茶を楽しまれたとのお礼状を頂きました。

さて今年はいわき支部創立三十周年を迎えます。振り返れば、旧福島支部は昭和二十七年五月に設立され、鵬雲齋お家元の指導の下、四分割となり、平成七年四月郡山市において、四支部合同発足式が執り行われました。今後、式典、表彰、懇親会、茶会、記念誌発行、記念行事等について、実行委員会を検討していただきたいと存じ

ます。会員による会員のための、「おかげさま」という感謝の気持ちを込めた未来に繋がるような三十周年にしたいと思います。

我国及び世界中で、あらゆる分野で大きな変革が進んでおります。このような流れの中で淡交会の活動も従来の歩みを大切に、変化に対応していかなければなりません。会員としての結びつきを強くし、英知と情熱を持って積極的に活動していただきたいと存じます。

結びに、心身共にご健勝で、すばらしい一年になりますようご祈念申し上げます。新春の挨拶といたします。

# 年頭のご挨拶



いわき市長  
内田 広之



令和六年の年頭にあたり、謹んで御挨拶を申し上げます。

はじめに、昨年九月の台風第13号による大雨は、本市に甚大な被害をもたらしました。被災された皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

一般社団法人茶道裏千家淡交会い

き支部の皆様におかれましては、茶道文化の継承、発展のため、「支部茶会」や「ふだん着のお茶会」の開催等を通じて、市民の皆様にも「茶道」という日本の伝統文化に親しむ機会を御提供いただき、本市の文化芸術の振興に多大な御貢献をいただいておりますこと、心から敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

「茶道」は、古来の風習や習慣、地域の風俗などを継承し、わびさびなどの美しい心得が感じられる、精神性や芸術性などを融合した総合芸術であり、客人をもてなす茶道の精神は、他者を労わる心を育み、日本の「おもてなし」の精神にも繋がるものと考えております。

様々な困難の中にあっても、茶道を通して、人々の心のつながり等が形成されるとともに、市民の皆様にも安らぎと元気をもたらすことを期待しております。

市といたしましては、災害からの復興・復興とともに、豊かな文化に親しみ、それを未来に継承し、発展させ、誰もが誇りと愛着を持てる文化芸術のまちづくりを推し進めてまいります。

皆様には、引き続き御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人茶道裏千家淡交会いわき支部のますますの御発展と会員の皆様の御健勝、御活躍を心から

祈念いたしましたして、新年の御挨拶といたします。

# 年頭のご挨拶



副支部長  
村田 裕之



新年あけましておめでとうございます。

昨年九月八日に発生した線状降水帯（県内で初）はいわき市内郷地区他に甚大な被害をもたらしました。湯本にある私共の茶室「登仙庵」も少なからず被害を受けました。被害に遭われた皆様方には心よりお見舞い申し上げます。

昨年の五月には新型コロナウイルス感染症の位置づけが「五類感染症」になり、支部のさまざまな行事もほぼコロナ前の状況となり、ようやく平常に戻りつつあります。そのような中、コロナ禍で中断していた、留学生に茶道で日本文化を体験していただくプロジェクトを実行することができました。昨年十月二十五日に東日本国際大学で学ぶ留学生による地域情報発信サークル「グローバルネットワークプラス」に

所属する韓国や、ネパール、ウクライナ出身の男女十三人に「登仙庵」においていただき、実際に調理口から出入りしたり、薄茶を点てたりしながら茶道を体験していただきました。参加者は、「茶道体験を通して日本文化、そして茶のこころを学べて感動した。」とか「私たち留学生にとって、忘れられない特別な経験」と大変喜んでいただけました。そして、今回の茶道体験を、母国をはじめ世界中にSNSで発信していただきました。まさにグローバルな取り組みではなかったかと自負しております。今後もこのような活動を続けていけたらと思っております。

結びに、皆様方のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。

# 年頭のご挨拶



副支部長  
田村 哲朗



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年も災害の多い年となりました。

九月には地元いわき市においても大きな水害があり、私自身も会社が一部被災いたしました。改めて自然災害の恐ろしさを痛感いたしました。被災された方々にまずはお見舞い申し上げます。

昨年一月、私自身初めて今日庵初釜式に出席の機会を頂きました。第一席ではお家元と大宗匠のご挨拶を頂き、濃茶を頂きました。また、薄茶席においては、若宗匠、お家元夫人方のおもてなしを頂きました。若宗匠のユーモアに富んだご挨拶が心に残りました。このような機会を頂き感謝いたします。

数年前から海外での仕事も少しずつ増えて参りました。先日アメリカでのパートナーが来日した折、国内各地をご一緒致しました。神社・仏閣等見学して改めて日本の文化のすばらしさを再確認いたしました。

現在このように、茶道とかかわらせて頂き、自分なりに茶道を通して改めて日本人の心を学ぶ機会を頂きありがたく思います。今後ともご指導宜しくお願い致します。

最後になりましたが、皆様の今年一年のご健勝とご多幸をご祈念致しまして新年のご挨拶と致します。



# 年頭のご挨拶

幹事長  
伊東宗恭



明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

併せて日頃から支部活動にご支援ご協力を賜り感謝申し上げますと共に、本年も引き続きどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、本年は「茶道裏千家淡交会いわき支部」発足三十年の記念すべき年となります。

歴代の支部長、副支部長をはじめ、役員会員の皆様方のご尽力・ご協力の元、現在の支部が形成され、活動の基盤のレールを敷いていただきました。

平成七年四月四支部合同発会式を郡山市で開催後、平成十三年に第四十五回東北地区大会主管支部として開催するに当たっては、当時の馬目支部長の強いリーダーシップのもと、会員一同一丸となって成功に導かれたことが特に印象深く残っております。

また、平成二十三年三月の東日本大

震災と原発事故により、かつて経験したことのない被災を受け、地域によっては絶望に近い状況の中から立ち上がり、懸命に向き合い、苦難の道を少しずつ歩を進めてはいるものの、他方、情報等によれば現状は困難を極めており、遅々として進まない復興の道のりはまだまだ遠い状況と思われれます。

そのような中、平成二十六年五月、「道の駅南相馬」及び「ひがし生涯学習センター」を会場に、総本部より木戸崇夫事務局長をお迎えし二〇〇名近い会員の参加により開催された二十周年記念事業「復興祈念のつどいin相双」は、大変意義深くお茶を通じて希望の持てる開催となったのではないかなと思われれます。

また、この後も度重なる自然災害に見舞われるなど思い返すととてつもないエネルギーを要する年月であったと思えます。さらには、未知の新型コロナウィルス感染症の出現により、人の

の会話・飲食・会食がしにくい状況が生じ、なかなかお稽古が思うようにならない時期もありました。そのような中、会員一同、常に希望を持ってお茶のある暮らしを維持されて、支部の活動が継続実施されている現状に感謝の言葉以外見つかりません。回顧録のようになりましたが、苦難の連続の間を乗り越えてきた支部の足跡に思いを馳せ、今このような時に、時代に

応

じた支部のありように真摯に向き合い、次の十年二十年先を見据えて次の世代にバトンをつないでいく重責に改めて身の引き締まる思いです。

昨年は異常気象の言葉が多く飛び交った時でもあったような気が致します。その暑いさなかの八月二十七日に筑波大学教授であり裏千家教授でもある「石塚修先生」をお迎えして、東北地区主催いわき支部主管で福島県内四支部合同定期巡回講演会を開催いたしました。

コロナ禍の中にも関わらず県内各地より多くの会員のご参加をいただき盛会のうちに終了できましたことは、お茶の力のもつ偉大さに改めて気づかされたことでした。

一方、いわき支部活動状況を振り返ってみますと当初事業計画の研究会、支部茶会、市民文化祭協賛茶会などコロナ禍の影響もぬぐえない中、予定通り実施することができました。

特に支部茶会は、濃茶席、薄茶席の二席を設けて開催し、濃茶は一人一碗とし慎重に対応するなど工夫しながらのお茶席でしたが、ご参加いただきました皆様にはお茶を介しての会員同士の交流に、一時を楽しみむことができたのではないかと思っております。

また、文化祭協賛茶会は文化センターの改修工事に加えコロナ禍の影響を受けて七年ぶりの開催となり、いわき市

茶道連盟加入の各流派のお茶席には心待ちにしていた多くの方々への参加を得ることができました。そのうち裏千家のお茶席には二五五名のお客様をお迎えし、秋の風情を感じながら一碗を楽しんでいただくことができ、お陰様で盛会のうちに終了することができました。

これもひとえに、それぞれのお茶席を担当された先生方及びお社中の皆様のご努力・ご協力の賜物とこの場をお借りして御礼申し上げます。

一方、総本部においては、コロナ禍以降デジタル化が一層推進されており、

昨年十一月には初めて総本部主催のオンライン幹事長会議が開催され初体験致しました。

これまでの文書による通知等についてはすでに一部メール化されているものもあり、総本部と支部間の各種事務は今後デジタル化が一層推進し、事務の効率化が進むのではないかと考えられます。

また、総本部では、茶道人口の裾野の拡大などを目的に企業や団体、行政機関などと連携協定して、職業に従事している方々の研修等に茶道の活用を提案していくことと目標を掲げております。今後はこの分野の調査・検討が必要になると思います。

昨年はいわき支部においてもホーム

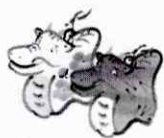
ページを開設し、支部活動状況の配信に努めております。開設以来経過を見ますと、現在までのところ毎月五〇〇余名の方々が検索している状況にあります。会員数から鑑みても開設した効果を感じることができ、いずれ将来的には会員の増強につながればと考えております。

会員の増強は支部にとりまして重要な懸案事項でありますことから、会員の皆様にはあらゆる機会をとらえお茶の普及にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、浜かいどう通信等の広報誌は、手にした方がどなたでも支部の活動を知ることができ、また、お茶に関心をもつきっかけとなりうる情報源として今後ともいわき支部ホームページと併用してご活用いただければと思っております。

令和六年は辰年。十二支の干支の動物は「龍」、龍は天高く舞い上がり人々の禍を除き福を招く聖獣と言われています。

新しい年が会員皆様方にとりまして、健やかで良き年となりますよう、心よりご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



### 令和6年度の主な行事

- 2月12日(月) 第30回(令和6年度)定期総会  
いわきワシントンホテル椿山荘
- 4月27日(土) 研究会・炉 いわき産業創造館(ラトブ)  
終身正会員以上
- 28日(日) 研究会・炉 いわき産業創造館(ラトブ)  
正会員以上
- 5月12日(日) 月釜茶会(小野・木下・佐川・渡邊社中)  
いわき市生涯学習プラザ茶室
- 6月8日(土) ふだん着の茶会  
いわき市生涯学習プラザ茶室
- 6月16日(日) 月釜茶会(菅野(浩)・小松・山内社中)  
いわき市生涯学習プラザ茶室
- 7月7日(日) 研究会・風炉 相馬市民会館  
終身正会員以上
- 10月6日(日) いわき市茶道市民合同茶会  
いわき市文化センター
- 10月19日(土) 研究会・風炉  
20日(日) いわき産業創造館(ラトブ)  
終身正会員以上
- 11月9日(土) ふだん着の茶会  
いわき市生涯学習プラザ茶室
- 11月24日(日) 支部茶会 いわき産業創造館(ラトブ)
- 12月15日(日) 月釜茶会(佐藤宗幸社中)  
いわき市生涯学習プラザ茶室

#### 編集後記

あけましておめでとございます。本年も、どうぞ宜しくお願いいたします。元旦に発生した、能登半島地震においては、東日本大震災を思い返された方も多かったのではないのでしょうか。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

二〇二四年は「甲辰(きのえたつ)」「甲」はものごとの始まり「辰」は成長の年。これまで努力してきたことが、飛躍して、さらなる成長が期待できると思われると思います。

皆様にとって、今年こそ「龍」のように勢いよく、天まで高く上昇する吉年となりますようお祈りいたします。